



# 長野の正月行事

20世紀後半における科学技術のめざましい発達はいまだにないほどの繁栄を私たちにもたらしましたがその反面、さまざまな社会のひずみ、貴重な伝統文化や文化財の荒廃、人間疎外などの状況をつくり出しました。

しかし昨今、安定成長の中で古き良き日本的なものを見直そうという動きがみられるようになってきたことも事実です。

それぞれの地域が受け継いできた有形無形の伝統文化を再認識、あるいは復興することで、地域の文化活動が活発化し、ひいては町づくり村おこしの拠点ができ、地域連帯感の回復の手立てにもなることが期待されます。

長野盆地には古い伝統を伝える民俗行事が人々の生活の中にまだたくさんみられます。それら身近な伝統行事を改めて見直す意味で正月の行事の中からいくつか取り上げてみました。

博物館では現代の私たちの生活とこれまで続いてきた過去の生活との調和を計りながら、地域社会と地域文化の発展と創造に寄与できれば幸いと考えています。

## 芦の尻道祖神

### —更級郡大岡村芦ノ尻—

芦ノ尻は山あいの40戸余りの集落です。ここでは毎年1月7日に、松飾りをおろして村はずれにある道祖神の前に持ち寄り、集まったしめ縄を使って、道祖神の石碑の前に異様な神面を作ります。これまで1年の間、村を守ってくれた古い神面はどんどん焼きの火で燃やされます。この新しい道祖神の神面と道にしめを張ったミチキリが悪霊から村を守ってくれるのです。



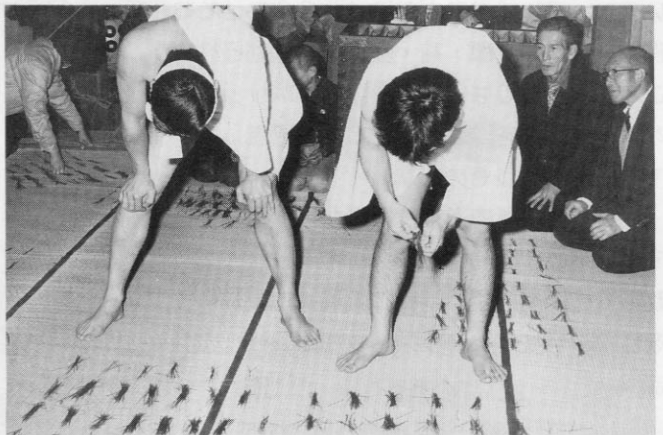


児玉石神事

たまよりひめみこと  
**玉依比売命  
 神社御神事**

—長野市松代町東条—

御神事は御田祭、<sup>おんた</sup>児玉石神事、<sup>こだまいし</sup>包換神事、<sup>つつみかえ</sup>の3つから成ります。御田祭は1月6日に行われ、3名の独身男性が作男に扮して田起しから代かき、田植えまでの所作を行います。1月7日は早朝から児玉石の神事と併行して、包換神事が行われます。児玉名の神事は御玉読みともいわれ、社宝として収蔵されている<sup>おたま</sup>勾玉等を<sup>まがたま</sup>一つ一つ数えあげ、その年毎の数の増減によりその年の吉凶を占うものです。包換神事は前年神前に上げた蒸御飯の糍のつき方によって、作柄の豊凶を占います。御田祭に始まる一連の神事は、豊作を祈願し、子孫繁栄を祈り、穀物の豊凶を占う予祝行事です。



御田祭



包換神事

# 長谷・越の道祖神祭り

—長野市篠ノ井塩崎長谷・越—

越地区越組では昭和30年頃まで、道祖神祭りが行われていましたが、その後は途絶えてしまいました。昭和58年に民俗行事を見直そうという気運の中で祭りが復活し、現在に至っています。

越組は75戸ほどの集落で、小正月の道祖神祭りはほとんど焼きのヤグラの中にオスガタと呼ばれる巨大なワラ人形を作ります。胴体・腕・足・指・頭の各部位はワラを束ねて作り、完成したオスガタは両手で大きなオンマラを抱き、両足を前にしてキンタマをはさみ込んで座した形態となっています。そしてオスガタには貼り合わせたお札で作った烏帽子・顔・袖・腹掛けが付けられます。この道祖神祭りはワラ人形にシンボリックな男根を有する男神をつくり、どんどん焼きで燃やすというものです。

塩崎では各所で道祖神祭りが行われていますが、その中でも長谷区東谷と越区平の両組は越と同様に人形（神像）を作り、燃やすという共通点がみられます。

オスガタ（越組）▶

東谷組は80戸ほどの集落で、松飾りをせず、豆がらに御幣をつける習俗が伝承されているところもあります。東谷では道祖神碑の上にどんどん焼きのヤマを作り、松飾りやダルマなどをまわりに積み上げ、最後にヨメ・ムコ（モコ）のフウフモノと呼ばれるヒナ人形2体（カンタサンと呼ぶ）を立てます。この人形は長い竹の先に十文字に竹の棒をつけ、かぶらで作った頭を刺し、色紙でつくった着物を着せます。ムコは左手に大福帳を持ち、ヨメは右手に扇を持ち、袴の下からムコは青と赤の御幣、ヨメは赤の御幣を垂らします。どんどん焼きの火でカンタサンはあっという間に燃え、道祖神碑も共に焼かれます。

平組は17戸ほどの小集落ですが、集落内には道祖神碑がありません。越組に近似したワラ人形のオンマラサマをヤグラの中に作ります。平のオンマラサマは立ち姿で約170~180cm位の高さになり



ます。

長谷・越地区という狭い地域の中に神像や道祖神碑を焼くというパラエティーに富んだ火祭りが行われているのは道祖神祭りの系譜と発展過程を探る上で大変に興味深いことです。



カンタサン（東谷組）

## もぐら追い

—長野市川中島町今里古森沢—

害鳥を追う鳥追い、害獣を追う猪追いと同じく、田畑を荒らすもぐらの害を除くために行われる予祝行事です。

現在、もぐら追いは今里古森沢の小林芳さん宅ほかに伝承されています。1月15日早朝、まだ暗いうちに肥桶の縁を天秤棒でギーギーとこすったり、「モグラホイ、ヘビもムカデも山ゆけホイ」と唱えながら、家の回りを杵でたたきます。家の回りをたたき終わるとさらに玄関から出入り口の方にたたいてまわってもぐらを自分の家より追い出します。以前には田畑でも同じようにもぐら追いをしたといわれています。



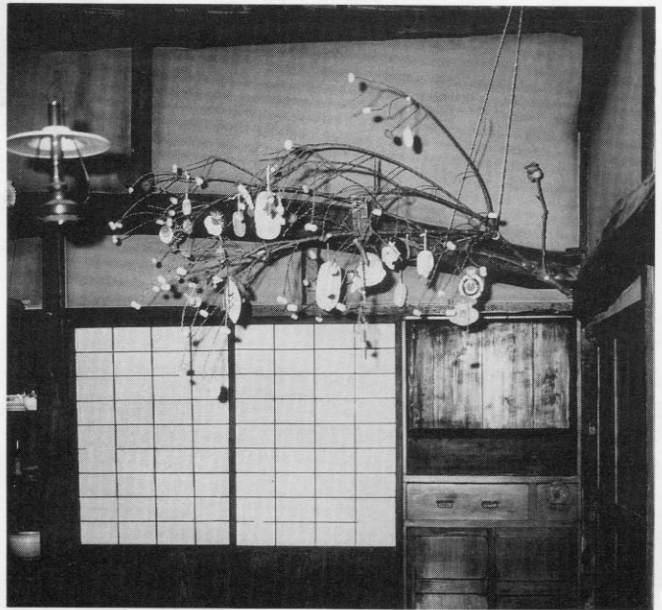
モグラオイ（古森沢）

# 高岡の道祖神祭り

—長野市若穂保科高岡—

1月14日に各家々の戸主は又ルデの木を造作して和紙を着せ、男女一対の道祖神(ドウロクジン)を作り神棚に供えます。そのあと家族みんなで米の粉をこねて蒸し、それで農作物の形や大判・小判、きんちゃくなどをつくり、木の枝にとりつけ、神棚のある部屋に飾るモノヅクリをします。

翌15日の夕刻、どんどん焼きの準備が整うと、又ルデの道祖神を神棚より下げて、いったん道祖神碑の前に安置します。そのあと古い木像道祖神や松飾りをどんどん焼きの火で燃やします。どんどん焼きが終わると道祖神日待占いの小豆焼きが行われます。現在は公会堂の中に作られたいろり囲炉裏のまわりに集まり、村人注視の中で「ドウロクジンサン、ドウロクジンサン、ごきげんがよかったら、くるりとまわらっしゃい」とドウロクジンの御機嫌を伺ってから、真赤に焼けた鉄皿の中に小豆を一粒づつ入れ小豆の動きや回転状況によって、世の中や農作物の豊凶の占いを行います。この小豆焼き占いは昭和36年を最後に途絶えていましたが、昭和54年に区民の総意によって、18年ぶりに復活して今日に至っています。



又ルデでつくられたドウロクジン(ト)  
モノヅクリ (博物館内) (中)  
小豆焼き占い (下)

# 昭和62年度・63年度 新収蔵資料展

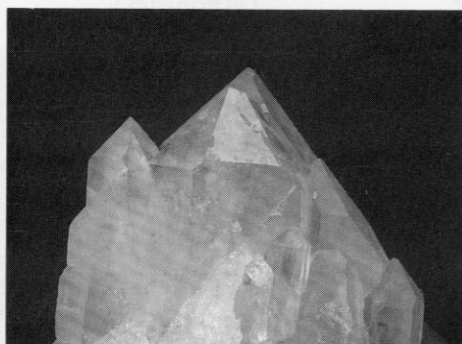
2月26日～5月21日

62年度、63年度中に市民の皆さんから御寄贈・御寄託いただいた資料を展示します。  
新収蔵資料のうち、自然分野より岩石・鉱物資料をここでは紹介します。

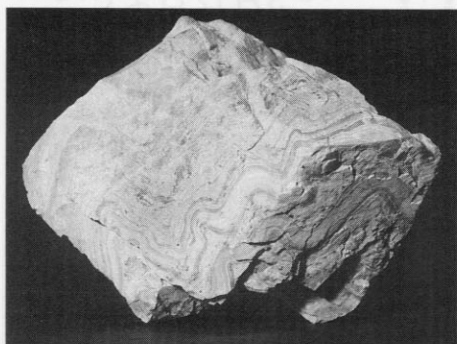
昭和63年8月に稲森潤氏（前東京学芸大学教授）より御寄贈いただいた岩石・鉱物標本 708 点の中の一部です。

これらの標本は北海道から沖縄の日本各地で収集されたもので、岩石・鉱物あわせて約 150 種類になります。

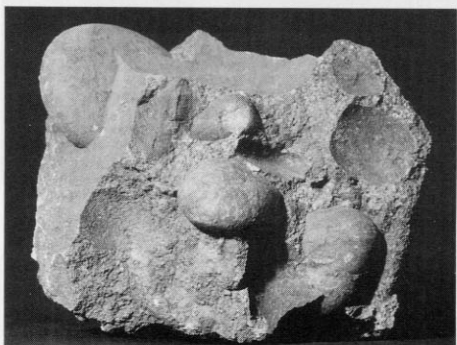
博物館では新収蔵資料展で紹介するとともに、茶臼山自然史館特別展「いろいろな岩石とそのでき方」(仮称) で展示します。



水 晶（産地不明）



流紋岩（岐阜県三尾河）



礫 岩（岐阜県白山）



火山弾（東京都三宅島）

## \* 資料の収集に御協力を \*

現在、馬にかかわる資料の収集を進めています。これまで馬は運搬・農耕・儀礼・信仰などさまざまな面で私たちの生活と深くかかわってきました。そうした馬に関する資料（写真も含む）をお持ちの方は博物館まで御一報いただければ幸いです。

## 講座・教室のご案内

### ◆歴史講座（3回シリーズ）

文字に書かれた身近な歴史

— 近世文書を通じて —

第1日 2月4日(出)

第2回 2月25日(出)

第3回 3月11日(出)

午後2時～4時

講師 藤森 治幸

(当館専門員)

### ◆星座教室 2月5日(日)

午後4時15分～5時30分

プラネタリウムで冬の星座を学習します。

### ◆天体観望会 2月10日(金) 午後6時～8時

木星と冬の星団・星雲を観察します。

### ◆プラネタリウムC・Dコンサート

3月25日(出)

特集 エルヴィス・プレスリーとビートルズ

\*教室・講座への参加申し込み、詳しい内容等は博物館までお問い合わせ下さい。

### ■博物館休館のお知らせ■

1月22日(日)～28日(土)

博物館では展示・収蔵している文化財を虫や菌

から守るために館内消毒をします。このため左記の期間は休館となります。

なお茶臼山自然史館は平常通り開館します。

## プラネタリウム

## 冬の番組

# シリウスは赤かった!?

～ 3月12日まで～

冬至を過ぎて、一日ごとに日が長くなっていきますが、寒さはこれからが本番です。そしてその寒い夜空に一年中で最も美しい星たちが登場し、数々の物語を語りかけています。

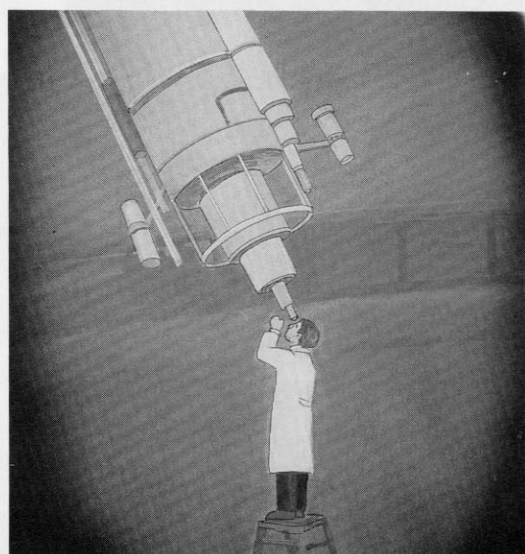
その中でもオリオン座の左下に全天で一番明るい恒星のシリウス（おおいぬ座）の輝きが目に入ります。シリウスは昔から「青星」とか「大星」と呼ばれ、その名が示すように白もしくは青白い色をしています。ところが、今から約2000年前にはシリウスが赤い星だったという記録がヨーロッパ各地に残っています。一般に、星というのはそんなに短い間（1000年～2000年）に色が変わるといことはたいへん考えにくい現象です。どういふことなのでしょう。

番組では冬の星座散歩とその赤いシリウスの謎に挑戦します。

投影日 土曜・日曜・祝日

投影開始時刻 午前10時・11時30分

午後1時30分・3時



クラークは自製の望遠鏡でシリウスを観察した。すると…

博物館だより No.13 1989.1.21

編集・発行 長野市立博物館

〒381-22 長野市小島町田八幡原史跡公園内

☎ (0262)84-9011